

力
化学語源辞典

尾 藤 忠 旦 著

化学語源辞典

工 学 博 士

尾 藤 忠 旦 著

三共出版株式会社

著 者 略 歴

尾 藤 忠 旦 (静風)

大正4年2月6日生

〔住所〕 岐阜市茜部神清寺2-45

名古屋工業大学教授・工学博士・薬剤師

〔主要著書〕 (*印共著)

化学技術史* 社会科学系の化学

工業化学概論* 油脂・食品工業及び試験法

油化学・食品化学 高分子工業概論

工業化学実験法* 新編工業化学実験*

基本工業化学実験* 岐阜県植物目録 (I, II, III)*

動物・植物民間薬提要* 和漢生薬解説

植物の季について 罌粟の実

金と銀 全例句一人歳時記 清泉 (俳誌)

化学語源辞典

¥4500

昭和52年2月20日 初版発行

© 著 者 尾 藤 忠 旦

発行者 萩 原 た み 子

印刷者 田 中 春 吉

発行所 三 共 出 版 株 式 有 限 公 司 東京都千代田区

郵便番号 電話 (264) 5711(代) 振替 東京 1-1065

社団法人 日本書籍出版協会・社団法人 自然科学書協会・工学書協会 会員

Printed in Japan

用紙・王子 印刷・壮光舎 製本・徳住

3543-10110-2740

緒 言

化学に親しむにはまず用語を知ることから

平均的に言って、人間は理数系より法文系、化学より物理、植物より動物を好むように思われる。それで、大学の教養部などで一般の学生にとって化学は苦手の学科である。また、化学系学科の学生でも、百足（むかで）のように炭素が列んだ鎖状化合物や、亀が折り重なったような縮合環化合物を見ると余り親しめないし、その名前を聞くと、うんざりすることが少なくない。ことに植物成分からの化合物になじめない名称が多く、大抵は嫌気がさしてくる。しかし、如何に一般の人に嫌われようとも、我々は化合物から出来ており、空気、水、食物、住居、機械、乗物などすべての物体も化学成分から成り立ち、化学反応により絶えず身体の一部を補修し、エネルギーを得て生存している訳で、あらゆる学問中最も大切と言える。それに親しむにはまず化学用語を知ることである。

一方、教師の側から見ても、教養部や短大家政科で对手が少しでも興味をもつように、いろいろ苦心もし、気も使わねばならない羽目となる。こんな時に語源の話や、エピソードを話せば、眠気覚ましや、香辛料的な役割を果たすこととなるろう。

大和言葉・漢語・印欧語を含めた語源について

物の名前の起こりは大変むづかしい。西洋の学問的な言葉は大抵、印欧語に属するので、サンスクリット、ギリシア語（ないしはラテン語）に基づくものが多く、一部アラビア語からのものが入っている程度で、他の言葉からの名前は極めて少ない。それで、印欧語系では化学の語源書は出ているが、割に簡単なものが多い。それが日本語となると、固有の日本語（大和言葉）に漢語が入り、漢語を用いて日本人が明治維新にオランダ語から、苦心して創作した科学系の熟語が一杯入っており、その上、英独仏露語なども併用されているので実に厄介千万である。

純日本語（大和言葉）は、古来の日本人種と同様に、南方系の南島語と、大陸系のツングース語が混交したものが基礎となっているらしく、まだその解明は緒についたばかりの感である。従来、の国語学者が触らぬ神に祟りなしとば

かり、語源はタブーとして避けて通った位であり、日本国語大辞典を見ても、一つの語に数個の語源説が挙げてあるのが普通で、その選択に迷う次第である。

本書のねらいと特色について

本格的な化学の語源辞典には、言語学、語学、文学、歴史学、化学、物理学、工学、医学、薬学、生物学、農学、家政学、民族学等々の分野の専門家の協力を得なければ、そして得たとしても完全なものを作ることは容易な業ではない。いわんや浅学非才の一個人の力では余りにも荷が重すぎる。それで本書は飽くまでも、盲蛇に怖じずで、完全な辞書の出現への一里塚として書かれたものである。大部分は辞書などの文献に基づいているが、多数説のあるものは、私なりの解釈で一つに絞った場合が多いし、文献にないものは、一つの試案として私なりの考えで記してあるので、他によりよい説もあろうし、見当違いの説もあろう。また、その他に誤記やミスプリントもあるかと思われるが、お気付きの点は著者宛に何卒御教示いただきたく、切にお願いする次第である。

語源のみでは無味乾燥となるので、著者40年の教育経験を生かして、随所に随筆的な記事を挿入し、読む辞書としても興味のあるように配意したつもりである。

用字、用語、表記等について

専門の語源書でないから、英<仏<羅<希<梵語のような経緯で導入された語も、その代表的な(成るべく古い)一つを記した場合が多い。また、簡略にするために略号や略記も多いが、これは凡例で知っていただきたい。物名に対する語源以外の解説は必要以外は最少限に留めたので、必要があれば専門書を参照願いたい。植物では学名(属名)より容易に判断出来る成分名や、鉱物では地名、人名に基づく名称は重要なものか、日本語の別名のあるもの以外は原則として省略したし、植物学名の語源も専門書を御覧いただくこととして省いた。

さらに、必ずしも当用漢字や科学用語辞典に準拠しなかった。これは、かなで記すと別の意味にとられたり、語源が不明となったり、冗長となったりするのを防ぐためである。また、最新の化合物命名法による名称は、ギリシア数詞などから機械的に判明することが多いから、本書ではむしろ、慣用名、通名に重点が置かれていることも御承知いただきたい。なお、語源書ではドイツ語名詞の頭文字も大文字で書かぬことが多いが、本書では他語と区別する意味もあり、敢てそれに従わなかった(商品名も頭文字が大文字になっている)。記載

にやゝ重複気味の部分もあるが、余り極端に、何々参照では手間ばかり多くかかり味気ないためであって、この点も御了解願いたい。また、日本語、欧語、漢字の索引を付ければ使用に便利ではあるが、厖大なものとなるので一切省略し、本文の見出しでこれを兼ねるようにした。

初めての総合化学語辞典である

本書は、学ぶ側の学生にも、教える側の教官（教養・専門部、短大家政科）にも、それぞれの参考になろうかと思って執筆したものであるし、世界でも初めての、大和言葉・漢語・印欧語の総合化学語源辞典であるが、余り欲張り過ぎて虹蜂取らずにならなかったかと心配している。しかし、人々から敬遠され勝ちな化学に、多少とも親しみを覚えて貰える仲介ともなれば、著者の苦心も報われたこととなり、望外の喜びである。衣食住など生活関連用語も多く入れたので、公害や食品添加物など環境衛生に関心のある方々や、一般教養書として読んでいただける諸士にとっても好適であろうと自画自讃しておく。

終りに、困難な本書の出版をお引き受けいただき製作にいろいろご尽力くださった三共出版株式会社の久松康二、西尾文一両氏、そして、骨の折れる校正に御協力いただいた佛願保男、武藤正男の諸氏に衷心よりお礼を申し上げる次第である。

昭和 52 年 1 月

著 者

凡 例

1. 文中次の記号を用いた。

$A \longrightarrow B$ } AについてはBの見出しを参照されたい。
 $A(\longrightarrow B)$ }

$A > B$ AからBの意味が生じた。

$A \sim B$ Aないし(または) B。

$A(B)$ A BまたはA。 } これらは主に見出しで、Bが極めて短い場合に限る。

$A[B]$ AまたはB。 } 一般にはカッコ内は注か説明である。

▷ 参考、関係語を示す。

cf. 比較されたい。

2. カッコ類や番号は次のようにした。

(..... [.....(×××××).....])

"....."

①, ②, ③,

3. 語源の略語は次のとおりである(一部土語を含む)。ギリシア文字、ロシア文字はローマ字に直し、Skr, Gk の文字の長短記号は略した。

O 古代—

M 中世—

Am 米語

Am-Ind 米インディアン語

Ar アラビア語

Ch 中国語

Da デンマーク語

Du オランダ語

E 英語

Egy エジプト語

F 仏語

Fin フィンランド語

G 独語

Gae ゲール語

Gk ギリシア語

Gm →Teut

Heb ヘブライ語

HG 高地独語

Hin ヒンズー語

Hun ハンガリー語

Ice アイスランド語

Ir アイルランド語

It 伊語

Jap 日語

Kechuan ケチュアン語

Kelt ケルト語

L ラテン語

LG 低地独語

Malay マレー語

Maori マオリ語

Mex メキシコ語
Mon モンゴル語
Nor ノルウェー語
Per ペルシア語
Por 葡語
Pr プロバンス語
Ru 露語
Sc スコットランド語
Sca スカンジナビア語
Sem セム語
Skr 梵語 (サンスクリット)

Sp 西語
Sw スウェーデン語
Tam タミル語
Tag タガログ語
Tahiti タヒチ語
Tatar タタール語
Teut チュートン語
Tupi ツービー語
Tur トルコ語
W-Af 西アフリカ語
W-Ind 西印語

元素記号表

元素 記号	元 素 名	原子 番号	族	元素 記号	元 素 名	原子 番号	族
Ac	ア、チニウム	89	III B	Fm	フェルミウム	100	III B
Ag	銀	47	I B	Fr	フランシウム	87	I A
Al	アルミニウム	13	III A	Ga	ガリウム	31	III A
Am	アメリシウム	95	VII	Gd	ガドリニウム	64	III B
Ar	アルゴン	18	0	Ge	ゲルマニウム	32	IVA
As	ヒ[砒]素	33	VA	H	水素	1	I A
At	アスタチン	85	VII A	He	ヘリウム	2	0
Au	金	79	I B	Hf	ハフニウム	72	IV B
B	ホウ[硼]素	5	III A	Hg	水銀	80	II B
Ba	バリウム	56	II A	Ho	ホルミウム	67	III B
Be	ベリリウム	4	II A	I	ヨウ[沃]素	53	VII A
Bi	ビスマス	83	VA	In	インジウム	49	III A
Bk	バークリウム	97	III B	Ir	イリジウム	77	VIII
Br	臭素	35	VII A	K	カリウム	19	I A
C	炭素	6	IVA	Kr	クリプトン	36	0
Ca	カルシウム	20	II A	La	ランタン	57	III B
Ce	セリウム	58	III B	Li	リチウム	3	I A
Cd	カドミウム	48	II B	Lu	ルテチウム	71	III B
Cf	カリホルニウム	98	III B	Lr	ローレンシウム	103	III B
Cl	塩素	17	VII A	Md	メンデレビウム	101	III B
Cm	キュリウム	96	III B	Mg	マグネシウム	12	II A
Co	コバルト	27	VIII	Mn	マンガン	25	VII B
Cr	クロム	24	VI B	Mo	モリブデン	42	VI B
Cs	セシウム	55	I A	N	窒素	7	VA
Cu	銅	29	I B	Na	ナトリウム	11	I A
Dy	ジスプロシウム	66	III B	Nb	ニオブ	41	VB
Er	エルビウム	68	III B	Nd	ネオジム	60	III B
Es	アインスタイニウム	99	III B	Ne	ネオン	10	0
Eu	ユーロビウム	63	III B	Ni	ニッケル	28	VIII
F	フッ[弗]素	9	VII A	No	ノーベリウム	102	III B
Fe	鉄	26	VIII	Np	ネプツニウム	93	III B

元素 記号	元 素 名	原子 番号	族
O	酸素	8	VIA
Os	オスmium	76	VIII
P	リン〔磷〕	15	VA
Pa	プロトアクチニウム	91	III B
Pb	鉛	82	IVA
Pd	パラジウム	46	VIII
Pm	プロメチウム	61	III B
Po	ポロニウム	84	VIA
Pr	プラセオジウム	59	III B
Pt	白金	78	VIII
Pu	プルトニウム	94	III B
Ra	ラジウム	88	II A
Rb	ルビジウム	37	I A
Re	レニウム	75	VII B
Rh	ロジウム	45	VIII
Rn	ラドン	86	0
Ru	ルテニウム	44	VIII
S	イオウ〔硫黄〕	16	VIA
Sb	アンチモン	51	VA
Sc	スカンジウム	21	III B
Se	セレン	34	VIA

元素 記号	元 素 名	原子 番号	族
Si	ケイ〔珪〕素	14	IVA
Sm	サマリウム	62	III B
Sn	スズ〔錫〕	50	IVA
Sr	ストロンチウム	38	II A
Ta	タンタル	73	VB
Tb	テルビウム	65	III B
Tc	テクネチウム	43	VII B
Te	テルル	52	VIA
Th	トリウム	90	III B
Ti	チタン	22	IV B
Tl	タリウム	81	III A
Tm	ツリウム	69	III B
U	ウラン	92	III B
V	バナジウム	23	VB
W	タングステン	74	VIB
Xe	キセノン	54	0
Y	イットリウム	39	III B
Yb	イッテルビウム	70	III B
Zn	亜鉛	30	II B
Zr	ジルコニウム	40	IV B

[あ]

亜…亞 (人の背が曲った形>劣る>つぐ)。
つぎの意。亜～酸(-ous acid), 亜酸塩(-ite),
亜族(subgroup)のように用いる。次より
酸化数の低いものをいうことが多い。▷亜
炭。→炭。亜砒酸(無水亜砒酸の俗称)。

アイ (藍, indigo)…あおより。正しくはアキ。
cf. 愛(アイ)・鮎(アユ)。草の監(カン)ラン。
音符。見はる>手本, おさ)の意。タデ科
アイ, マメ科キアイ(インドアイ), ジャワアイ,
アイフジ, アブラナ科タデアイ, タイセイ,
マタイセイ, トウダイグサ科ヤマアイ,
キツネノマゴ科リュウキュウアイ, ガガイ
モ科アイガガイモ, アイノキ, キョウチク
トウ科アイノキより得られる。→インジゴ。
▷青は藍より出でて藍より青し。紺屋の白
袴。

IR …infrared spectrum(赤外スペクトル)。
infra, L, 下に。

アイソタクチック (isotactic)…isos (Gk, 等し
い)+taktos(Gk, 整理した)+-ic。置換基が
上方または下方にのみ出ている高分子の立
体異性体を isotactic polymer という。→
アタクチック, シンジオタクチック。

アイソトープ→同位体。

アイボリー紙 (ivory paper)…ivory (<ebur,
Egy, 象牙)の光沢を有する紙。

アインスタイニウム (einsteinium, Es)…A.
Einstein(物理学者)+-ium(ラテン語名詞
語尾)。元素。

アウエルメタル (auermetal)…C. v. W. Auer
(オーストリア化学者)発明の発火合金
(Fe+Ce)。

アウクビン (aucubin)…アオキ Aucuba(<ア
オキ)属の配糖体。

亜鉛 (zinc, Zn)…鉛につぐの意。Zink(G, 亜
鉛鉱石)(<zincum, L)より。亜鉛華は亜鉛
白(zinc white, ZnO)。華ははな>白い粉。
亜鉛酸(zincic acid H_2ZnO_2)と亜・鉛酸
(H_2PbO_2)とは間違いやすい。▷亜鉛鉄
板(→トタン), 亜鉛スピネル(gahnite<人
名)。

青葉アルコール (leaf alcohol)…青葉に因む。

3-ヘキセン-1-オール。▷青葉アルデヒド。
アオブニン(awobanin。青葉やツユクサの
花の色素)。

アカシア油 (acacia oil)…acacia(Gk)より。
札幌のアカシアはニセアカシア(アメリカ
のlocust)で異なる。精油でカッシイ油(cassie
oil)とミモサ油(mimosa oil)とある。前
者はcassia(シナケイジュ)より来ていると
いうがacaciaの転とも見られる。後者はア
カシアでminus(L, [動物の]まねをするも
の。葉を閉じるため)より。日本ではネムリ
グサをミモサという。ネムノキ(合歓), クサ
ネム(ネム茶を製する)も葉を閉じるのに因
む。

アカデミー (academy)…Akademeia, Gk よ
り。プラトンが教えた学校名でAkademos
神のオリブ林の意より。大学, 研究所。

アガト酸 (agathic acid)…Agathis 属(マニラ
コーパル, カウリコーパル)より。

アカネ (茜, madder)…赤い根の意。西方の
夕焼空の色の根の草の意。アカネ科。アカネ,
セイヨウアカネにはアリザリン, ブルプリ
ンを含む。

アガリシン酸 (agar(ic)ic acid)…Agaricus 属
(ハツタケ属)より。

アカロイド (acaroid)…acer(L, [臭気の]鋭
い)+-oid(>-oeides, Gk, …のような物,
…状の物, …質の物)。樹脂。

アガロース (agarose)…agar(寒天)+-ose(糖
語尾)。

アギ(阿魏, asafetida)…Ferula asa-foetida(セ
リ科アギ)の樹脂。阿(つぐ)と魏(たかい)。
aza(Per, 樹脂)+foetida(L, 悪臭を放つ
こと)。

アキシロフトール (axerophthol)…抗乾燥性ビ
タミン(antixerophthalmic vitamin, ビタ
ミンA)。-olはアルコール語尾。

アキュムレーター(蓄圧器, 蓄電池, accumu-
lator)…accumulare(積み重ねる)+-or
(もの)。

あく(灰汁, lye)…かめの酒や汁をかけて空
にすることより。灰汁は当て字。leah(OE,

温浴)より。炭酸カリウムを主とする。洗剤となる。野菜のあくは、えぐ味(ホモゲンチジン酸、シュウ酸)、渋味(タンニン)、苦味(配糖体、アルカロイド)。

アクアマリン (藍玉, aquamarine)…aqua(L, 水)+marine(L, 海)で海水の色に因む。宝石。▷アクオ(アコ, aquo<aqua. 配位子)。仏語関は梵語(Skr. ラテン語と同じインドヨーロッパ語族) arghyaより。

アクチニウム (actinium, Ac)…aktinos(Gk, 放射能)+-ium. 元素。アクチニウム系元素を actinoid(Ac→Lr), actinides(Th→Lr)と総称する。lanthanides(希土類)に対応。

アクチノマイシン (actinomycin)…放線菌(放射線状をしている微生物で多くは土中に存する。~マイシンという抗生物質はこの類から得られる) Actinomyces 属に因む。-mycin<mukes(Gk, 菌)+-in. actinorhodin は赤色(rhodon, Gk, バラ)のため。

アクチン (actin)…actus(L, 行為)+-in. グロブリン様蛋白質。ミオシンとの化合物は actomyosin。

アークチン (arctin)…ゴボウ Arctium lappa の果実(悪実。悪性腫瘍に用いる)の配糖体。

アグノステリン (agnosterol)…agnus(Gk, 子羊)+sterol(独 Sterin)。羊毛ロウに含まれる。

アグマチン (agmatine)…agumatos(Gk, 破片)より。アルギニンの腐敗で生じる塩基。

アグリコン (非糖部, aglycone)…a-(Gk, 否定)+glukus(Gk, 甘い>糖)+-one. 配糖体より糖を除いた部分。

アクリジン (acridine)…acrid(辛い, 苦い)+-ine. 複素環状化合物。▷acrinamine(語尾に -amine. マラリア治療薬。商品名 Atebrin), acrinol(語尾に -ol. 殺菌剤。商品名 Rivanol は菌と競争する[rivalisieren, G]ため), acriflavine(語尾に -flavus[Gk, 黄色の]。殺菌剤。商品名 Trypaflavine)。

アクリル酸 (acrylic acid)…acer(L, 鋭い, 刺激の強い, 辛い, 苦い)(<acrolein)+-yl+-ic+acid. $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{COOH}$ 。アクリロ

イル基は $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{CO}-$ 。アクロレイン(アクリルアルデヒド, acrolein. $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{CHO}$)、アクリロニトリル(acrylonitrile, 独 Acrylnitril. $\text{CH}_2=\text{CH}\cdot\text{CN}$)、アクリロフェノン(フェニルビニルケトン, acrylophenone. アクロイル+フェニル+ケトン. $\text{C}_6\text{H}_5\cdot\text{CO}\cdot\text{CH}=\text{CH}_2$)。

アーク炉 (弧光炉, arc furnace)…arcus(L, 弓形, 弧, 電弧)より。

アコニチン (aconitine)…Aconitum 属(トリカブト属)+-ine. アルカロイド。化学的製品や薬品の語尾は -in であるが、塩基・元素の語尾は -ine となる(独語では塩基も -in)。→ウズ。▷aconitic acid, aconitase, atisine。

アコン酸 (aconic acid)…イタコン酸に因む。

アサ (大麻, hemp)…青麻(あそ)より。麻は家屋内に皮をはいだあさが二つ並べてある形。繊維植物の代表的なものであり大麻(>お札)という(一品種にインド大麻草)。henep, OE。▷他に亜麻・黄麻(ジュート)・苧麻(イラクサ)・苧[ボウ]麻(イチビ)・苧麻(カラムシ)・洋麻(ケナフ)・赫麻(タイヨウアサ)・ニューゼーランド麻(ニューサイラン, マオラン)・胡麻・苧麻・麻竹など。麻酔・麻薬の言葉も本植然に因み、その成分はテトラヒドロカンナビン。ハシッシュ(haschish, Ar, 干麻), マリファナ(marijuana, Am-Sp, 麻>その製品)はその製品。神御衣(かんみそ)祭, おんぞ(御衣)祭。麻雀は牌に麻竹や孔雀の図があることより。→麻実油, 苧麻。▷麻の中の蓬。

アサクサノリ (浅草海苔, laver)…アマノリの抄乾品で、もと隅田川口の浅草付近で産したため。lavare(L, 洗う)より。和紙の製法に似る。▷のり巻。

アザフリン (azafrin)…ゴマノハグサ科 Azafranilla 属のカロチノイド。

アザラン油 (海豹油, seal oil)…海の豹(ヒョウ)はアザランであるが、海象または海馬はセイウチ, 海驢(海のロバ)はアシカ。seolh(OE)より。印, 封の意味の seal は sigillum(L, 小さい印)より。

アジ (鯷, horse mackerel)…味がよいから。

鯨のツクリ(サン)は入り混るの意。実は鯨(なまぐさい)の誤字で日本ではアジに当てる。ムロアジからはクサヤの干物を製する。味(taste)…甘(あまいは、うまいと同意)放ちより。味はツクリが音符。taster, OF, 感じる, 味わう。→味覚。

アジ化物(アジド, azide)…azote は azoe(Gk, 命のない)より生じ窒素の古名。-ide は ~ 化合物。アジ化水素 NH_3 置換体。▷azido(N_3^- が配位子となったとき), aza(含窒素複素環状化合物に冠する語), azlactone, azetidine(トリメチレンジイミン)。

アシッド(Acid)…acidus(L, 酸い, 酸の)より。酸性染料の商品名に多く用いる冠称。aci- は酸形を示す接頭語。▷アンド(acido, 酸基の配位子[chloro, bromo, nitrato, acetato, sulfato など]の総称), アシドイド(acidoid<acid+-oid, 酸性原子団をもつコロイド粒子), アシドーシス(acidosis<acid+-osis, Gk, 病名語尾。酸過多症[酸血症]), アシラン(Acilan, 酸性染料の冠称)。

アジピン酸(adipic acid)…adeps(L, 脂肪)+-ic+acid。脂肪酸は英語では -ic+acid, 独語では -insäure となるものが多く, 日本名は独語によっている。▷adipamide(アジボアミド), adiponitrile, adipoin, Adiprene(adeps+isoprene, ウレタンゴム商品名)。

アジミノ(アジミド, azimino, adimido)…アジンイミノの意。-N=N-NH- が環状構造に含まれているもの。

アジャコニン(ajacoin)…ヒエンソウ Delphinium ajacis のアルカロイド。

アジュマリン(ajmaline)…Ajmer(インドの州名)に因む。インドジャボク(ロウオルビア)のアルカロイド。

アージライト(argillite)…argil(陶土<argos, Gk, 白)+-lite(<lithos, Gk, 石)。泥岩。

アシル(acyl)…acid+-yl。カルボン酸 $\text{R}-\text{COOH}$ より OH を除いた原子団($\text{RCO}-$)。formyl, acetyl, oxalyl, benzoyl, furoyl などの総称。アルキル基の語尾との混同をさけるため新命名法は -oyl とする(ethanoyl, hexanoyl など)。▷アシル陽イオン $\text{R}-\text{C}^+=\text{O}$ は acylium (acetalium など) ion, $\text{RCOO}-$ は acyloxy(l) (acetoxy(l)) な

ど, $\text{R}-\text{CO}\cdot\text{CH}(\text{OH})-\text{R}$ は acyloin (acetoin, benzoin など)。acylase (アシル誘導体を分解する酵素), アシル化(アシル置換。acylation)。

アジン(azine)…azote(窒素)+-ine。複素環状化合物中六角で環内異原子が2個以上でそのうち少なくとも1個は窒素であるものの総称。ジアジン(ピリダジン, ピリミジン, ピラジンはピリジンに因む), トリアジン, テトラジン, オキサジン(オキソ+アジン), チアジン(チオ+アジン)など。▷azino(=N=N=)。

アスカリドール(ascaridol)…ascaris(L, 回虫)+d+-ol。アメリカアリタソウ成分。回虫駆除剤。

アズキ(小豆, azuki bean)…赤解け(赤くて煮ると解けやすい)より。小豆は大豆に対する語。赤小豆とも記す。餡に用い和菓子には大切。bean は OF より。

アスコステリン(ascosterol)…ascos(Gk, 革袋)+sterol(独 Sterin)。酵母, アオカビのステリン。

アスコルビン酸(ascorbic acid)…a-(Gk, 否定)+scurbutic(壊血病の)+acid。酸性はフェノール同様 $-\text{C}(\text{OH})=\text{C}(\text{OH})-$ の H^+ による。

アスタキサンチン(astaxanthin)…astakos(Gk, エビ)+キサンチン。エビ, カニのカロチノイド。酸化によりアスタシン(astacene, 独 Astacin)となり赤くなる。

アスタチン(astatine, At)…astaos(Gk, 不安定な)+t+-ine。元素。

アストロフィライト(星葉石, astrophyllite)…astron(Gk, 星)+phullon(Gk, 葉)+-yl+-lite。珪酸塩鉱物。▷astrolite。

アスバラガス(asparagus)…Asparagus(マツバウド属)によるが, これは sparrowgrass(スズメグサ)の意。和名はマツバウド(松葉に似てウド状の植物), オランダキジカクシ(外国からきたキジカクシ[植物名で, キジを隠す意]。これはユリ科であるがウドはウコギ科。▷asparagine, アスバラギン酸(aspartic acid, Asp. アミノ酸), asparagodin, asparaginase, aspartase, asparagolite(アスバラガス石, 燐灰石。色の類似より), as-

partyl (1 価), aspartoyl (2 価), asparaginy (アスパラギンより。1 価)。

アスピリン (aspirin) … a- (打消 [天然物から得たものでない]) + Spirea ulmata (バラ科でこれに含まれる) + -in (薬品)。spiraic acid はサリチル酸の古名。もとは Bayer の商品名。化学名アセチルサリチル酸。一般にアセチル基を入れると毒性が減少する。

アスピレーター (水流(空気)ポンプ, 吸引器, aspirator) … aspirate (<aspirare, L, 呼吸する) + -or (もの)。

アスファルト (土歴青, asphalt) … asphaltos (Gk, 落ちない) より。一名カーベン (carbon <carbon)。→ 歴青。

アスベスト (石綿, asbestos) … 石綿は形より。

a- (Gk, 否定) + sbestos (Gk, 消す [耐火性])。

アズライト (紺青石, azulite) … 紺青 (コンジヨウ) 色の石の意。azura (L, ルリ) + -lite。

アズルム酸 (azulmic acid) … azure (L, 青色の) に因む。原料に青化ナトリウムを用いる。

アズレン (azulene) … azure (青色の) + -ene (二重結合を有する炭化水素の語尾)。精油で青色を呈する。カミツレのものは chamazulene (<chamomile + azulene)。

アズロン (Azlon) … azote (窒素) + -lon (合成繊維に多い語尾)。人造蛋白質繊維。

アセ (ace-) … acetic (acetum [L, 酢] + -ic) に因む。▷ acet- (aceto-)。アセチル基の接頭語としての名称), acetyl (アシル基の一。エタノイル, CH₃CO-) , acetylation (アセチル化, アセチル置換, 酢(酸)化), acetyl cellulose (アセチルセルロース, 酢酸セルロース), acetylenyl (ethynyl, CH≡C-) , acetato (CH₃COO⁻ の配位子としての名称), acetate (acetic + -ate [酸の塩またはエステル] の語尾)。アセテート人絹をもいう), acetylacetonato (アセチルアセトンイオンの配位子としての名称), acetal (acetaldehyde + alcohol), acetoxy (l) (CH₃COO-) , acetin (酢酸グリセリンエステル。脂肪酸グリセリドは一般にこれに準じて命名), acetoxylation (アセトキシル化), acetolysis (酢化分解。-lysis は分解)。

アゼオトロープ (共沸混合物, azeotrope) … a-

(Gk, 否定) + zyeen (Gk, 沸騰する) + -trope (<tropos, Gk, 向くもの)。

アセタミン (Acetamine) … アセテート人絹に用いるアミンの意。分散染料の商品名。

アセタルゾール (acetarsol) … acetyl + arsenic (砒素) + -ol。梅毒薬。

アセチレン (acetylene, ethyne) … acetum (L, 酢) + -ylene (三重結合を有する炭化水素の語尾)。学名は ethane + -yne (三重結合炭化水素語尾)。アセチレン化合物は acetylide。-ide は oxide, chloride, cyanide, carbide などの如く化合物語尾。~acetylide はアセチレン(化)~または炭化~。→ イン。

アセツル酸 (アセチルグリシン, aceturic acid) … acet- + urea + -ic + acid。uric acid (尿酸) はプリン系で異なる。

アセチアニリド (アセチルアニリン, アンチフェブリン, acetanilide) … acet- + aniline + -ide。anti- (Gk, 抗) + febris (L, 熱) + -in。解熱剤。

アセトアルデヒド (acetaldehyde, ethanal) … acetic acid よりのアルデヒドの意。CH₃CHO。学名は ethane + al (アルデヒド語尾)。▷ CH₃CN は acetonitrile (acetic acid よりのニトリル)。

アセトイン (ジメチルケトール, acetoin) … aceto- + -in。di- (2) + methyl + ketone + -ol (アルコール)。CH₃CH(OH)COCH₃。

アセトナフテン (アセチルナフタリン, メチルナフチルケトン, acetoneaphthone) … acetone に naphthyl の入ったもの。▷ アセトフェノン (メチルフェニルケトン, acetophenone。acetone に phenyl の入ったもの)。

アセトニル (acetonyl) … acetone + -yl。CH₃COCH₂-。▷ acetonylidene (acetonyl + -ide + -ene) は CH₃COCH=。

アセトール (acetol) … アセトンアルコール。

アセトン (プロパノン, ジメチルケトン, acetone) … acetic + -one。ケトン (ketone < acetone) の名称はこれから起った。学名は propanone (ケトン語尾)。cf. アセトフェノン。

アセナフテン (acenaphthene) … acetylene + naphthalene に因む。ナフテン環も存する。▷ アセナフタジン (アセナフテン + アジン)。

アゼライン酸 (azelaic acid) … Azotsäure (G, 硝酸。硝化に硝酸を使用するため) + elation (Gk, 油) + 酸。HOOC(CH₂)₇COOH。

阿仙薬 (カテキュー, catechu, cutch) … 阿 (=鴉。くろい) 仙薬の意。一名, 孩 [ガイ] 児 (幼児の意) 茶。マメ科 *Acacia catechu* のベグ阿仙薬のほか, アカネ科 *Uncaria gambir* のガンビール阿仙薬もある。タンニン原料。kachu, Malay より。▷カッチ (cutch < catechu) は他のタンニン原料 (ヒルギ科) を含めていう。カテキン (catechin, catechuic acid), カテコール (→ピロカテコール)。

アゾ (azo) … azote (窒素) に因む。-N=N-。アゾ化合物はアゾ基をもつもの。▷アゾキシ (azoxy, -N(=O)=N-), アゾ染料, アゾイック染料 (ナフトール染料の別名), azotometer (窒素計), azomycin (N を含む放線菌よりの抗生物質), azolitmine (リトマス成分。N を含むため), azomethine (メチレンイミン, RCH=NR'), azotobacter (窒素固定細菌), azetidine (トリメチレンイミン)。

アゾール (azole) … azo + -ole (pyrrole などの語尾)。5 原子複素環で環内に異原子 (うち少なくとも 1 個は N) が 2 つ以上のもの。イミダゾール (イミドに因む), オキサゾール, チアゾール (チオに因む), ピラゾール (ピロールに因む), トリアゾール, テトラゾールなどがある。→アジン。

アタクチック (atactic) … a- (否定) + taktos (Gk, 整理した) + -ic。集合体の立体構造の不規則な意。→アイソタクチック。

アダクツ (付加物, adduct) … addition product の意。

アダプター (受接管, adapter) … adeptare (L, 適合させる) + -er。

アダマンタン (adamantane) … adamant (a- [否定] + damaein [Gk, 打勝つ])。堅固無比のもの。かご形縮合の安定な炭化水素。

アダムサイト (adamsite) … R. Adams (人名) + -ite。塩化フェナルサジン (phenyl + arsenic + azote + -ine)。毒ガス。

圧縮 (compressed) … 圧は土と厭 (エン) > アウ > アツ。あく > ふさぐ) とより成る。

com- (L, 共に) + presare (L, 圧する) + -ed。▷圧延, 圧潰, 圧碎, 圧送, 圧下, 圧成, 圧感, 圧力 (pressure < presare + -er。力は右腕の象形で理 [リ, すじ] の音より, リキ, リョク の音を生じた)。圧搾機 (press, compressor), マノメーター。

アッセイ (assay) … exigere (L, 目方を計る) より。分析, 試金 ▷bioassay (bios, Gk, 生命。微生物試験)。

アデニン (adenine) … aden (Gk, 腺) + -ine。6-アミノプリン。アデニル酸 (adenylic acid) はアデノシン (adenosine < adenine + -ose + -ine, アデニン + リボース) の燐酸化化合物。▷ATP (アデノシン三燐酸。補酵素)。

アデノクローム (adenochrome) … aden (Gk, ドングリ) + khroma (Gk, 色)。タコの心臓などの色素。

アデルミン (adermin) … a- (Gk, 除く) + derma (Gk, 皮膚 > 皮膚炎) + -ine。ビタミン B₈。

アドソール (Adsol) … adsorb (吸着する) + -ol。酸性白土よりの乾燥剤 (商品名)。

アドニック (Adnic) … admiralty (海軍本部の) nickel の意。銅合金。

アドニット (adonitol, 独 Adonit) … Adonis 属 (フクジュソウ属) の五炭糖。リボースの還元にてても得られるのでリビット (ribitol) ともいう。すべて糖類の語尾の -it はドイツ語で主に用い, 英語では普通 -itol (この方が合理的) となる。

アトファン (Atophan) … acetophenone (原料に用いる) + -an。神経痛薬。

アトマル (atomal) … atom (原子) に因む。微粒子現象薬。

アドレナリン (adrenaline) … adrenal (ad [L, 付着する] + renes [L, 腎臓])。副腎 + -ine。ホルモン。アドレノクロームはこの誘導体で色素。アドレノステロンは副腎皮質よりのステロイド。→ノル(アドレナリン)。

アトロピン (atropine, dl-hyoscyamine) … ナス科の *Atropa belladonna* (It, 美女。アトロピンを点眼すると瞳が大きくなる [散瞳作用がある] から) + -ine。アルカロイド。▷アトロバ酸 (atropic acid), アトロラク

チン酸 (atrolactic acid), トロパ酸 (tropic acid), atronene, atroglyceric acid. cf. アトロプ異性 (G, Atropisomerie. 内部回転光学異性. 転じ得ない意)。

アナ (ana-)…(Gk, 前置詞(上へ, 再び, 後へ)。縮合環化合物の置換基の位置を示す。ナフタリンの1, 5位, キノリンの5位。▷アナログ(analog. 類似体)。

アナバシン (anabesine, neo nicotine)…Anabasis 属(アカザ属)のアルカロイド。ニコチンの異性体。

アニオノイド (anionoid)…anion (陰イオン [→イオン, 界面活性剤]) + -oid (類似物)。アニオノイド反応は求[親]核 (nucleophilic. philos, Gk, 愛する) 反応。カチオノイド (cationoid) 反応は求[親]電子 (electrophilic) 反応。

アニス (aniseed) …セリ科 アニス実 (anise [$\leftarrow$ anison, Gk] + seed)。香辛料。アニス油 (anise oil) 原料。▷アニス酸 (anisic acid) anisoyl, anisaldehyde (auvépine [F; サンザシ] の別名がある), anisole, anisoin, anise alcohol, anisyl (p-メトキシフェニル), アニシル酸 (anisyllic acid), anisylidene (アニスアルデヒドよりの2価原子団), anisamide (アニス酸アミド), anisamine (アニシラミン)。

アニリン (aniline) …al (Ar, 定冠詞) + -nil (Ar), nili (Skr, 藍) + -ine. anilide はその化合物, anilino は基名。

アニリング (焼なまし, annealing) …an (OF, 上に) + ælan (OE, 焼く) + -ing. なますは鈍す。▷焼入れは hardening, 焼戻しは tempering. 急冷 (チ密→もろい) ↔ 徐冷 (粗ショウ→粘い)。

アネステジン (anesthesin) …anesthetic (麻酔剤) + -in. 麻酔薬。

アネトール (anethole) …Anethum (セリ科ウイキョウ旧属名) + -ole. 精油成分。

アネモニン (anemonin) …Anemone 属の発泡成分。

アノイリン (Aneurin, 独) …a- (否定) + neuron (Gk, 神経 > 神経炎) + -in. ビタミン B₁₂。この分解酵素はアノイリナーゼ (aneurinase. -ase は酵素語尾)。→アリン。

アノード (anode) …ana- (Gk, 上に) + hodos (Gk, 道) > 電流の入口の意。日本語では現象によって陽極または陰極となる。電解では陽極, 電池では負極, 腐食反応では溶解金属の方をアノードと呼ぶ。cf. カソード (陰極, cathode)。→イオン。

アノマー (anomer) …ano (Gk, 上方) + isomer. 半アセタール環状構造の単糖類の異性体。

アピイン (apiin) …Apium (セリ科ペセリ旧属名) のフラボン配糖体。apigenin (apiin + -genes [Gk, 生じる]) はこの非糖部。▷apiose, apionic acid, apiol, apionol, apione.

アビエス油 (バイン油, abies oil) …Abies 属 (マツ科エゾマツ属) の精油。▷バイン油 (松葉油。マツ科 [Pinaceae] に因む), アビエチン酸 (abietic acid), abietinol.

アビジン (avidin) …avid ([貧欲な] < avere [L, 熱望する]) + -in. 卵白の蛋白質でビオチンを不活性化するのでこの名がある。▷avidity (毒素抗毒反応)。

アピラーゼ (apyrase) …a- (除く) + pyrophosphoric acid + -ase. ATPジホスファターゼ。

アフィニン (affinin) …ad- (L, …へ) + finis (L, 近接した) + -in. 二重結合が近接しているため。spilanthol の別名。

アブサン (absinth) …Artemisia absinthium (ニガヨモギ, absinthin はこの苦味質) に因む。混成酒。神経毒のため今はニガヨモギを入れていない。abrotine は近種 A. abrotarum のアルカロイド。

アブシジン酸 (アブサイシン, abscisic acid, abscisin) …abscindere (L, 離脱する) + -ic + acid. 植物ホルモン (休眠, 落果, 落葉)。

アブチン酸 (abutic acid) →ロテノン。

アブラ (abra) …岩石中の空洞。Mex より。油 (oil) …あぶりとる (またはあふれる) より。由(ユウ)川のようにゆったり流れる > あぶら。初めは主に植物油にいったが、今は広く油脂・鉱油・精油などに用いる。動物油脂は初めは膏 (角のない動物のあぶら), 脂 (角のある動物のあぶら), 膩 (皮フからにじみ出るあぶら) に区別されていた。今は常温で液体・固体を含めて、工学方面では油脂 (油と脂肪の意), 医薬・栄・農方面では脂肪と呼ぶことが多い。英 oil, 独 Öl,

仏 huile<oleum, L<elaion, Gk, オリーブ油。▷油断(古語, ゆたに[ゆったり]より)大敵, 油を売る。

アフラトキシ (aflatoxin) …aflu(L, 流れ来る, 襲い来る)+toxin(毒素)。ラッカセイなどのカビ。Asp. flavusの毒素。例えばアフラトキシBはバターイエローの900倍の発ガン性がある。黄変米毒素も Penicillium 属よりのアフラトキシ。

アブリン (abrin) …Abrus属(マメ科トウアズキ属)の有毒蛋白質。根茎や葉には甘草と同じ甘味成分があり飲料となる。同属のアルカロイドは abrine。→相思子。

阿片 (opium) …鴉(くろい色より)片(切れはし)より。opion (opos[Gk, 植物汁]の縮小詞)より。アルカロイド約30種を含む。

アポ (apo) …apo (Gk, 離れた, …から)。▷アポモルフィン(モルフィンから得られたものの意), アポルフィン(aporphine。モルフィンよりの意で, ジヒドロフェナントレン系アルカロイドの総称), アボカフェイン, アボコール酸, アボ酵素(apoenzyme)。

亜麻 (flax) …繊維として麻に亜(つ)ぐの意。fleax(OE)より。リンネル(亜麻布, linen)は linen (OE)より。▷アマニ油(アマニ油, 亜麻仁油, linseed oil)。仁は種子(潤いがあり芽となる部分)。

アマゾン石 (amazonite) …世界一のアマゾン河の流域で採れるので天河石ともいう。

アマトル (amatol) …ammonium+a+trinitro-toluene。爆薬。

アマニチン (amanitine) …Amanita属(タマゴテングタケ属)+-ine。キノコ毒。

アマランス (amaranth) …ヒユ科のアマランスの色に似る色素。▷amarantite(硫酸塩鉱物)。

アマリン (amarin) …amara(L, 苦い)+-in。Nを含む複素環状化合物。▷amarineは苦扁桃よりのイミダゾリン誘導体。

アマルガム (amalgam) …malagma(Gk, 軟い金属)より。水銀と他金属との合金で汞和金の訳もある。

アミオライト (ammiolite) …ammion (Gk, 朱[色の])より。Hgのアンチモン化鉱物。

アミグダリン (amygdalin) …Prunus amygd-

lus(苦扁桃。bitter almond)の青酸配糖体。青梅の毒でもある。バラ科の種子に多い。→キョウニン。▷amygdaloid(杏状岩)。

アミジン (amidine) …amide+imide+-ine。

RC(=NH)-NH₂。▷amidino[基](guan-yl)。

アミド (amide) …ammonia+-ide。酸アミド(RCONH₂)または金属のアミド(M・NH₂)。▷amido(RCONH-の基の名称[acetamidoなど]), amidase (C-N結合加水分解酵素で, aminaseはその中の一), amidoxime(アミドオキシムの意)。

アミドール (amidol) …amide+-ol。写真現像薬。2,4-ジアミノフェノール塩酸塩。

アミニウム塩 (aminium salt) …amino+ammonium+salt。[R₃N-]。

アミノ (amino) …ammonia+-ine+o。-NH₂。配位子の名称にも用いる。▷アミノ酸(アミノカルボン酸), amination (<amino+ation。アミノ化)。アミノフェナシルアルコール(amino+phenyl+acyl+alcohol)。

アミノピリン (aminopyrin) …amino+pur(Gk, 火>熱)+-ine。解熱剤。商品名は Pyramidon(<pur+amide+-on)。▷アミノフィリン(aminophylline)は amino+theophylline。強心利尿薬。

アミラーゼ (amylase) …amylum(L, 澱粉)+-ase(酵素語尾)。俗にジアスターゼ(diastase)というが, これはフランスでは酵素全体を指し不正確。▷amyloid (<amylum+-oid)は類澱粉体。amylose (<amylum+-ose[糖語尾]), amylopectin(<amylum+pectin)はともに澱粉の成分。

アミリン (amyrin) …ミカン科の Amyris 属に因む。テルペン。

アミル (amyl) …amylum (L, 澱粉)に因む。C₅H₁₁。n-amyl は pentyl。▷amylen (C₅H₁₀=)。

アミン (amine) …ammonia+-ine。NH₃のHをRで置換したもの。▷amphetamine(プロパミン)。alpha-methyl phenethyl+amine。覚醒剤)。

アメトカイン (amethocain) …amethustos(Gk, 酔わせない)+cocaine。局所麻酔剤。

アメリカシウム (americium, Am) …Americaに